

# 令和元年度病害虫発生予察指導情報

## 対象病害虫：斑点米カメムシ類（No. 4）

令和元年8月20日  
鳥取県病害虫防除所

### 1 情報の内容

既に出穂期を迎えた水田では、アカスジカスミカメが平年並～やや多く、クモヘリカメムシが平年より多く発生している。

ひとめぼれ、コシヒカリなどで、穂揃い期～乳熟初期にかけて防除を行っていないほ場では直ちに防除を行うとともに、これから穂揃い期を迎えるほ場（中生品種など）では、穂揃い期～乳熟初期の基本防除を徹底する。

### 2 発生状況

- (1) 8月19日現在、水田内では、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどが発生している。
- (2) アカスジカスミカメの発生量は平年並～やや多い。発生状況は、ほ場間差および地域間差が大きく、穂揃い期～乳熟初期にかけて防除を行っていないほ場、水田周辺に出穂したイネ科植物が多いほ場および地域での発生が多い。
- (3) クモヘリカメムシの発生量が平年より多く、特に中平坦部では、周辺に出穂したエノコログサ、ヒエ類が多いほ場および地域を中心に発生ほ場が散見される。

### 3 防除上注意すべき事項

- (1) 8月上旬に出穂期を迎えたほ場（ひとめぼれ、コシヒカリなど）で、穂揃い期～乳熟初期にかけて防除を行っていないほ場では直ちに防除を行う。  
また、防除を行ったほ場においても、周辺に発生源（イネ科雑草）の多い場合は、防除後も発生状況に注意し、要防除水準を超えている場合は防除を行う。
- (2) これから穂揃い期を迎えるほ場（中生品種など）では、穂揃い期～乳熟初期の基本防除を徹底する。その後も発生が多い場合には、7～10日間隔で1～2回の追加防除を行う。  
また、出穂20日前頃に水田周辺のイネ科雑草地、畦畔などの草刈りを行っていない場合は、先ず、穂揃い期～乳熟初期に草刈りを行い、草刈り後直ちに防除する。
- (3) 水田内で穂をつけたヒエ類は、カメムシ類の発生を助長するので直ちに取り除く。
- (4) クモヘリカメムシはイネの登熟後期まで水田内で発生する。そのため、防除を行ったほ場においても発生状況に注意し、要防除水準を超えている場合は防除を行う。